

松茂町の自立支援、介護予防、重度化防止等に関する自己評価

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	年度	2018	2019	2020	2018～2020年度 取組内容	自己評価や今後の 課題・対応策など
<p>体操教室を行い、介護予防活動の普及・啓発を推進する。</p>	<p>アンケート調査の結果から、「体操・運動」に関心が高い高齢者が多い傾向があるため、既存の体操教室を充実することにより、介護予防につなげていく。</p>	目標	<p>チャレンジ太極拳 48回</p> <p>元気体操教室 36回</p>	<p>チャレンジ太極拳 48回</p> <p>元気体操教室 36回</p>	<p>チャレンジ太極拳 48回</p> <p>元気体操教室 36回</p>	<p>(2018) 町保健相談センターで「元気体操教室(毎週木曜日)」 「チャレンジ太極拳(毎週火曜日)」を開催した。</p>	<p>コロナの影響で各教室の目標回数を達成することができなかったが、全期を通しては、ほぼ目標回数を開催することができ、継続的に参加する人も増えてきた。そこで、専門家(理学療法士会など)による客観的評価の試行も考えたが、参加者全員に行うとなると時間的制約もあり実施困難であったため、自己評価を行うにとどまった。一方で、参加者の固定化が見られたため、2020年度からipadを使った認知機能向上講座やフレイルサポーター養成講座の新規事業を行い、新規参加者の開拓を図った。今後も引き続き目標とし、参加しやすく、かつ新しい生活様式を踏まえた教室運営を行うことで、介護予防活動の普及啓発を促進する。</p>
		実績	<p>チャレンジ太極拳 48回</p> <p>元気体操教室 40回</p>	<p>チャレンジ太極拳 42回</p> <p>元気体操教室 34回</p>	<p>チャレンジ太極拳 38回</p> <p>元気体操教室 36回</p> <p>脳わくわく若返りトレーニング講座 16回</p> <p>フレイルサポーター養成講座 1回</p>	<p>(2019) 継続的に教室を開催した結果、チャレンジ太極拳は新規参加者が増えた。一方、元気体操教室は参加者が固定化する傾向が見られた。</p> <p>(2020) ipadを使った認知機能向上講座やフレイルサポーター養成講座を行い、新規参加者の開拓を図った。</p>	

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	年度	2018	2019	2020	2018～2020年度 取組内容	自己評価や今後の 課題・対応策など
いきいき百歳体操等を開催することで、住民主体の通いの場を創り出す。	アンケート調査の結果から「閉じこもりリスク」を抱えている方が約2割いることがわかったので、徒歩でも通える場を創ることで閉じこもり予防や生きがいづくりを推進する。	目標	2ヶ所	5ヶ所	8ヶ所	(2018) 自治センター(集会所)で行う百歳体操に、徳島県理学療法士会に關与してもらうことで、運動機能の評価や支援を行った。	コロナの影響で通いの場の運営が困難となり、目標を達成することができなかった。一方で、感染防止対策をとり、継続的に活動を行ったグループでは、取組方法に自主性が出てきているので、地域包括支援センターからも引き続き支援を行っていききたい。また、行政が関わっていない小規模の住民主体の通いの場もあるので、そうした場所を活かした介護予防の取組をどのように行っていくかが今後の課題である。今後は、2021年度から運行開始した地域コミュニティバスを活用し、通いの場同士が交流し、横のつながりをつくることなどを検討し、引き続き通いの場の活性化に取り組みたい。
		実績	3ヶ所	4ヶ所	3ヶ所 (うち1ヶ所は 休止状態)	(2019) 3ヶ所を継続するとともに、新たに1ヶ所通いの場を増やすことができた。継続中の場所においては、取組方法に自主性ができつつある。 (2020) コロナの影響等で通いの場の運営が困難となり、廃止・休止となった場所があった。	

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	年度	2018	2019	2020	2018～2020年度 取組内容	自己評価や今後の 課題・対応策など
生活支援コーディネーターが高齢者宅の訪問を行ったり、各種事業所や企業と調整・連絡を行うことで、生活支援整備体制の基盤づくりを行う。	高齢者宅の直接訪問で人材の掘り起こしを行うことで、生活支援整備体制の担い手となるボランティアの育成へつなげていく。また、各種事業所や企業とつながりをもつことで、生活支援サービスの基盤整備を行う。	目標	65歳以上高齢者（主に独居）宅の戸別訪問を行うことで、高齢者の実態把握および人材発掘を行い、多様な人材が活躍できる場を創設するための体制づくり（各種事業所や企業への働きかけ）を目指す。			(2018) 高齢者宅の戸別訪問を行い、聞き取りシートを作成することで、高齢者の実態把握のための情報収集を行った。	2018年度から継続して高齢者宅を戸別訪問することで、住民基本台帳の情報だけでは分からない独居等の実態を調査した。この情報は緊急時の対応に繋げられるよう町他部局とも共有したい。また、訪問により把握したボランティア活動への参加希望者の中から、数件だが実際にボランティア活動に繋げることができた。一方で、フレイルサポーター養成講座への参加の声がけも行ったが、関心は示しても、実際の参加はなかった。運営側として活動することに対してはハードルが高いのかもしれない。アンケート調査の結果から、高齢者が移動支援や防災活動に関心が高いことが分かったので、町他部局と連携し、課題解決の一環として、2021年度からは「地域コミュニティバス」を運行させている。今後も継続的に情報収集を行うことで、地域課題を掘り起こし、課題の解決に取り組む。
		実績	高齢者宅の戸別訪問延べ650回（実件数423件）	高齢者宅の戸別訪問延べ636回（実件数356件、うち新規103件） 民間企業等訪問9ヶ所	高齢者宅の戸別訪問延べ572回（実件数205件、うち新規37件） 民間企業等訪問9ヶ所	(2019) 戸別訪問による情報収集を継続するとともに、民間企業等に高齢者ニーズの聞き取りを行った。また、町他部局と連携し、アンケート調査を行うことで、高齢者ニーズ等の情報収集を行った。 (2020) 戸別訪問を継続し、町内の独居状況を調査した。これにより、県営・町営住宅や古くからの団地において高齢者の独居が進行している状況が明らかになった。また、企業に認知症サポーター養成講座への参加の声かけを行ったが、人員の関係で参加が難しいとのことで実施には至らなかった。	